

# 沖縄だより

<http://okinawa-branch.com/>

No. 89

2019年6月20日

【発行】平和フォーラム沖縄事務所

tel/fax:0980-43-0740

mail:peaceforum.okinawa@gmail.com

## 沖縄の空・海・陸での訓練はやめてくれ！

1945年4月に北谷、読谷の浜に米軍が上陸してから沖縄の占領がはじまりました。米軍は占領と同時に本土攻撃を想定した基地建設と実弾を使う陸での訓練（キャンプハンセン、キャンプシュワ）、殺しを想定した訓練（北部ジャングル訓練場）、艦砲射撃の訓練（金武湾から恩納岳へ）、県道104号線砲撃訓練、都市型ゲリラを想定しての訓練（沖縄高速道路の金網に「流弾」注意）など、県民の命を脅かす訓練に対して時に激しく、時には数年の座り込みで、（キャンプハンセン、高江）、時に着弾地に座り込む（104号線実弾訓練）という命をかけての実力行使などが粘り強く、長期間に渡っての抵抗は、現在の辺野古新基地建設反対、普天間基地即時返還闘争に継続されています。

しかし、米軍も日本政府もお起案羽県民の命をかけた要求に、無視をし続け、県道104号線越え155ミリ砲榴弾砲の演習は北海道や静岡など、「本土」5か所に移転実施されているものの、戦後74年を経た今日にあっても訓練は軽減されるどころかますます激化しているのが現状です。

極東最大と言われる米空軍嘉手納基地から離発着を繰り返す戦闘機は年間9万回を越え、嘉手納町、北谷町、沖縄市は強く抗議しています。しかしながら米国は抗議をよそに、あたりまえのように訓練を繰り返し、最近では韓国、オーストラリアからも、国内の岩国、三沢からも嘉手納基地を利用した訓練が行われています。訓練はマイク・マイク・インディア等の南部訓練海・空域と伊江島を含む北部訓練海・空域が沖縄本島をぐるりと取り囲むようにあり、実戦さながらの訓練が行われているのです。



東村高江で離着陸訓練を繰り返すオスプレイ

この空域を米軍の占領されているために、那覇空港を離発着する民間航空機の飛行にも米軍優先のため、民間機の乗客の安全を守る配慮は全くありません。そのため、民間機は着陸態勢に入り那覇空港に着陸するまで、高度300メートルで非常に危険な飛行を強いられます。軍が民間人を守らないのは、かつての日本軍もそうでしたが現在の沖縄に駐留する米軍も同じです。

実践訓練のためならあの東村・高江のオスプレイ機の訓練のためにヘリパッドを建設強行したように、村民への思いやりはまったくありません。国の天然記念物に指定されたヤンバルクイナやノグチゲラなどの鳥たちのために、繁殖期の5月から6月にかけては訓練は実施されません。でも俺に言わせれば、鳥たちには申し訳ないが、人間の命を優先してくれと叫びたい。

戦争が終わって74年沖縄では常に実践を想定しての訓練で、宮森小学校戦闘機墜落、読谷村トレーラー落下による小学5年生の犠牲、嘉手納基地が出撃したB52戦略爆撃機墜落炎上などから最近においては沖国大大型輸送ヘリ墜落炎上、名護市安部の海岸へオスプレイの墜落、東村高江での大型輸送ヘリ墜落炎上、那覇市南90kmの海上での戦闘機墜落などの事故が相次いでいます。そしてMC130特殊作戦機による降下訓練がうるま市津堅島と嘉手納基地でのパラシュート降下訓練が強行されています。嘉手納では1998年から、津堅島沖では1997年からこのパラシュート降下訓練が、日米合同委員会合意を無視して、「例外」を口実に地元自治体の抗議を無視し、実施されています。これも日米地位協定により保護された米軍のやりたい放題の訓練に使われています。

許せないのは日本政府です。常に事件・事故があるたびに「沖縄県民によりそう」というものの、県民の命がかかっていることにまったく理解していない。自民党政権には腹がたちます。米軍基地撤去しか解決はありません。